

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
徳 育	<p>重点目標 自ら思いやる子ども の育成</p> <p>手段 1 相手意識を高める。 2 思いやりのある言動を増やす。 3 いじめ、不登校の解消率100%を目指す。</p>	1について 相手を意識した挨拶・返事・発表等の習慣化	1について (1) 相手意識についての実態把握 (2) 教師・保護者・子ども達による模範の実行と称賛	3	3	1について ○ 児童のアンケートによると「地域や友達に、先に元気よくあいさつをしていますか。」の問いに対して75%が肯定的な意見であり、保護者のアンケートでは、83%が肯定的な意見であった。 ○ 職員のアンケートでは、「相手を意識した挨拶、返事、発表ができていますか。」については肯定的な意見が75%であった。 ◇ 挨拶は、ある程度はできている状況であるが、相手を意識した発表等は、児童への称賛を交えながら、模範を示す等の取組を今後も継続していく必要がある。
		2について 相手の気持ちや立場を考えた言動の習慣化	2について (1) 言葉遣い等についての実態把握 (2) 道徳の時間、特別活動、こすもす科、帰りの会等を活用した指導と称賛	3		2について ○ 児童のアンケートによると「友達の名前を呼ぶとき、あだ名や呼び捨てをせず、必ず『～さん』をつけていますか。」の問いに対して77%が肯定的な意見であり、「ありがとうやごめんなさいがすぐに言えますか。」の問いに対して88%が肯定的な意見であった。 ○ 職員のアンケートでも、肯定的な意見は、「～さん」を付けることが71%、「ありがとうやごめんなさい」が79%であった。 ◇ 「～さん」付けについては、児童も職員もかなり習慣化が図られつつある。今後も指導と称賛を継続していく。
		3について いじめ・不登校を100%解消	3について (1) 日常における観察と定期的な実態調査 (2) 適切な指導や教育相談及び見届けの実施	3		3について ○ 児童のアンケートによると「今の学年になって、嫌なことをされたり言われたりしたことがありますか。」の問いに対して71%が「そう思わない。」という意見であった。 ○ 職員のアンケートでは、「いじめ・不登校に対する対応」については、96%が肯定的な意見であった。 ◇ 毎月実施の児童や職員のアンケートを踏まえ、いじめ・不登校対策委員会で共通理解を図り、組織的に対応するようにしている。今後も常在意識をもち、早期発見・早期対応の取組を進めていく。